

第三回会合を海外出張のため欠席しますが、事前に送付されました資料を拝見しますと、重要な課題につき議論があると思いますので、討議資料との関連において若干の意見を寄せます。

米国をはじめ主要諸外国は国防予算や宇宙開発予算により国家戦略に必要な基幹的科学技术を、直接の目的をこえて開発してきました。その多くは近年では一層デュアル・ユースのものであり、民生部門の競争力獲得にも結果的に多大な影響を与えていると感じます。

日本の平和主義はわが国に長期にわたって経済発展の基礎となる平和をもたらし、多くの途上国の範となる国家像を示したという点において今後も大事にすべきですが、そのことを踏まえたうえで日本としての国家戦略に資する科学技術開発力を日本らしい方法によって、強力に支援していく必要があると感じます。

たとえばすでに本調査会にて触れましたが、これからの安全保障には軍縮不拡散の観点からの査察、監視、観測などに資する科学技術やテロ防止のための技術の開発が必要であり、また無資源国のわが国としては、エネルギー逼迫の国際環境を視野に入れてエネルギー関連技術の充実も国家戦略の観点から重視しなければなりません。

また同時にそのような基幹技術とその応用において突破力を担う科学者のみでなく、中核的技術者やサポートスタッフのコンピタンスが強化されなければ、大いなる計画も思わぬところから混迷することになりかねません。また広く民生部門の競争力も現場の中核的技術の担い手が高齢化し、その技能とコミットメントが若い世代に必ずしも継承されていないのではと、不安に思うときがあります。

技術者として生きて経済的にも報われ、民主的な社会においてその貢献がよく認識され、職業人として大事にされる日本を築くことが、日本の競争力強化を目的の一つとする第三期計画の、隠れた大事な課題であるようにも思えます。